

No. 2495

愛 岩 山

平成 28 年 1 月 31 日 (日) 晴れ

参加者：右田(L・記) 佐々木 嶋原 岡本 上ノ原

大阪発 8:15 の新快速で京都駅に行き、山陰線で保津峡へ向かう。山陰線の車内は冬にも関わらず混んでいる。9:30 前に保津峡駅着。今日は、天気も良く暑いぐらいの気温である。いつもはあるはずの雪がまったくない。駅から橋を渡ってすぐにある登山口から直登する。最初は少し急な登りだがそこを登り切るとだらだらとした歩きやすい道に変わる。何組かの一般ハイカーのグループを追い抜いていく。米買い道の分岐で休憩し、再び急な斜面を登る。やがて清滝からの正面登山道と合流する。少し登って水尾分れ。やっと雪が出てくる。愛宕神社の参拝を済ませ、陽だまりで昼食。暖かいので助かる。帰りは同じ道ではおもしろくないので前から気になっていたケーブル跡を下ることにする。水尾分れの手前から左にルートをとると、やがて広場に出て愛宕駅の廃屋が出現する。こんなところに立派な駅があったのだ。中はボロボロで危険。ここから廃線敷を下る。荒れているが何とか歩ける階段を下る。途中 5 か所ほどのトンネルがあるがいくつかは閉塞していて通れない。が巻道がある。おもしろくはないが、歴史を感じるコースであった。ちなみに本ケーブルは昭和 4 年に開通したもので当時は東洋一の長さを誇っていたようである。



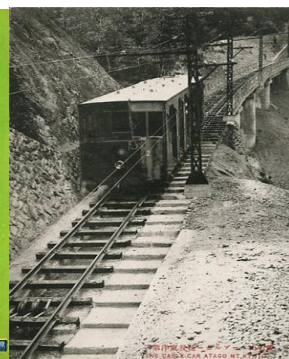
例年に比べ雪の少ない参道



ケーブル愛宕駅跡



昭和 4 年鋼索線開通を機会に発行された案内図



当時の愛宕ケーブル(S19年廃業)